



家読（うちどく）講演会

10月19日『家読（うちどく）講演会』が黒川コミュニティセンターで開催されました。

この講演会は、黒川町家読連絡会が、町内外の家庭に家読の良さを知ってもらうための家読推進活動として、毎年開催しているものです。

今回は、食育絵本の出版社『おむすび舎』の代表を務める霜鳥英梨さんが『命輝かせるために』をテーマに講演を行い、絵本を作るようになったきっかけや食の大切さなどを語り、参加者は熱心に聞き入っていました。

そのほか、講演会に合わせて絵本の原画展も行われ、来場者が原画1枚1枚に見入っていました。



↑「体は口から食べる食べ物でできているため、何を食べるかが重要だ」と話す霜鳥さん



男女協働参画、最初の一步は家庭から

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎23-21155

『育児・介護休業法および次世代育成支援対策推進法』が令和6年5月に改正され、令和7年4月1日から段階的に施行されます。

厚生労働省が行った、令和5年度雇用均等基本調査の結果では、女性の育休の取得率は84・1割で前年度より3・9ポイント上昇し、男性の取得率は30・1割で、13ポイントの上昇は過去最高の伸びでした。しかし、女性の取得率が8割台で推移している一方、男性の取得率は上昇しているものの、女性と比べて低い水準です。

男性の育休取得を妨げる要因として考えられることは、育休は女性が取得するものという社会の固定観念や職場の上司や同僚の理解不足、また、育休取得後のキャリアアップへの影響を懸念する意識などがあります。また、育児休業給付金は賃金の100割が補償されるものではないため、育

休中に収入が減ることも育休取得の妨げになっている可能性があります。

『育児や家事は女性の仕事』と考える風潮が、昭和世代の人にはまだまだ根深くあり、男性の育児や家事への参加が当たり前のこととして浸透するためには、制度の充実に加え、社会や企業全体での制度の周知や個人の意識を変えることが必要です。

家庭の中で『男性の仕事』『女性の仕事』と分けている固定した概念を見直し、男性も育児や家庭内の家事などの役割を平等に分担し、それぞれの状況に応じて男女の区別なく行動していくことが大切だと思います。

これからは、男女の差なく平等な未来へとつなぐ初めの一步として、各家庭から意識の改革を行い、認識の変革が必要であると感じています。

【伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員】

郷土の文化財

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

早里のイスノキ

伊万里市の天然記念物シリーズ④

瀬戸町早里地区には、国道204号線沿いの小高い丘に、大きなイスノキが立っています。

イスノキは、マンサク科イヌノキ属の常緑樹で、主に暖かい土地に自生する樹木です。平成18年に県の天然記念物に指定され、樹高約13m、目通り幹回り（目線の高さでの幹の回り）約2・5mと、県内でも屈指の大きさです。『ヒヨンの木』という別名があり、虫襲（むし襲）という虫の寄生などによつて出来た空洞の「コブを、笛のようにして吹くと『ヒヨン』と鳴ることから、このように呼ばれています。

イスノキは『柞灰』という磁器の釉薬の原料がとれ、柞灰は江戸時代で盛んに使われました。ところが、市のイス

ノキは徐々に減っていったため、日向（宮崎）や薩摩（鹿児島）で作られた柞灰を使用するようになりました。近年でも、開発などによつてイスノキの数は減少していて、県内でもごく僅かに見られる珍しい樹木です。

イスノキ周辺には、マテバシイやスタジイ、ヤブツバキなどが生育しています。これらは『暖地海岸性林』として、温暖な気候に恵まれた場所で見られる貴重な植生であり、市の天然記念物に指定されています。

